

PUPS 通信 第2号

PUPS 通信第2号をお送りします。

2月7日の昼過ぎから8日、東京近辺は久しぶりの雪でした。昼頃には止みましたが、一日中寒い日が続きました。

皆さんはいかがお過ごしでしたか？

1週目、国語のPUPSドリル、お疲れ様でした。多くの方は順調に終わったようですね。今週は、社会科に取り組む週です。日本史、世界史、地理、政治・経済、公共など幅広い分野にわたって復習をすることになります。受験教科にしていた分野は、さくさくと復習を進めることができますと思います。いっぽう、受験の時にはあまり勉強せず、教科書を開いたのは高校1年の時だったという分野もあるかもしれません。そういう分野は、最初は少し戸惑うかもしれませんが、復習を始めると、思い出すことがたくさん出てくると思います。ぜひそれらの内容も頭の中に定着させてください。

今週も計画を立てて勉強を進めてください。もし、先週の国語を全部終わらせることができなかつた場合は、今週は、国語の勉強と社会の勉強の両教科に、計画的に取り組みましょう。

PUPS 通信の今号も、第1号に引き続き、教員から皆さんへのメッセージをお届けします。熱いメッセージをぜひお読みください。

なお、3月に入って始まる「先取り講座」については、次号（2月16日以降に発行予定）でまとめてご紹介することにします。

◆◆教員からのメッセージ◆◆

◆ 鈴木直子（総合文化学科日本文化領域教授）

こんにちは、合格おめでとうございます！4月に皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

私は日本近代文学が専門です。小説は異なる文化・異なる時代への「窓」のようなものです。具体的な人物の目を通して、ある時代・場所の特徴が見えてきます。社会や文化を色濃く反映する文学作品という人類の遺産を、文学好きな方だけでなく、社会や歴史や文化に広く興味を持っているみなさんにも、ぜひ学んでほしいです。1年次の「日本文学読解トレーニング」などでそんなお話もしたいと思います。

趣味は、楽器を弾くこと、料理、そして大学生の娘とアニメを観ること。「進撃の巨人」

「チ。地球の運動について」は、本当に凄い作品です！「ゴールデンカムイ」も、アイヌやロシアなどの視点から日本を見ることができて大好きです。

◆ 駒井睦子（総合文化学科国際文化領域（スペイン語専攻）准教授）

入学予定者の皆さん

まだ寒い日が続いていますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。入学が決まり、ほっと一息ついている方もいらっしゃるでしょう。

4月からは、新しい大学生活が皆さんを待っています。大学は、高校までの学校とは異なり、自分で考え、決めて行動していく場面が多い場所です。授業を一緒に受ける人たちも科目ごとに異なり、いつも同じメンバーと過ごしてきたこれまでの学校生活とは、かなり違うと感じるかもしれません。けれども、それこそが大学生活の魅力です。

時には一人でランチをしたり、自習をしたりする時間を持つことをおすすめします。一人の時間を恐れず、自由に自分の時間を使うことに、ぜひチャレンジしてみてください。

大学は、皆さんが自分のペースで成長していける、自由な場所でもあります。

皆さんとお会いできる日を、心から楽しみにしています。

◆ 木川シュトレヒト弘美（総合文化学科文化史領域教授）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。総合文化学部、文化史領域の木川弘美です。西洋美術史を専門としていますが、日本近代美術やマンガなどのサブカルチャーもゼミでは扱っています。文化史領域の皆さんとはオムニバスの「文化史学序説」でお目にかかれるかと思います。他の領域の方でも、西洋美術に興味がある方は「キリスト教と美術」や「西洋美術の世界」、「美術概論」などで一緒に学びましょう。美術史という学問は高校まではほとんどなかったことでしょうかから、芸術に対する興味があれば誰でもウェルカムです。

◆ 中野渡俊治（総合文化学科文化史領域教授）

新入生のみなさん、ようこそ清泉女子大学へ。

総合文化学部文化史領域の中野渡俊治です。私の専門は日本古代史なのですが、文化史領域には歴史、美術史、宗教史、思想史と多くの分野の教員がそろっていることもあり、教員同士で話をしていると、クロスオーバー的な楽しさがあります。さらに総合文化学部までひろげると、ことばや文学の世界にまで及びます。ジョサイア・コンドル設計の本館と三号館もあるこの歴史的なキャンパスで、みなさん、これからさまざま興味をひろげてください。好きを極めるもよし、多くの分野に触れて智を深めるもよし。

そしてそのためには、大いに図書館を活用してください。図書館には、ネットで検索しただけでは思いもよらないような、智の情報が詰まっています。

◆ 鈴木崇夫（総合文化学科文化史領域教授）

大学での学びは、高校までとは大きく違います。正解を覚えることよりも、「これってどうなんだろう？」と自分で問いを立て、自分の頭でじっくり考える力が大切になります。たとえば、私の担当している哲学の演習（ゼミ）では、本を丁寧に読み解き、対話を重ねながら、世界や人間について感じる力・考える力を少しずつ深めていきます。なお、大学生活では、「たくさんの友達を作らなきゃ」と焦る必要はありません。気の合う人とは、自然に出会えます。一人でいることを恐れたり、恥じたりする必要もありません。むしろ、自分と向き合うその時間が、きっとあなたの大きな支えになってくれます。

さまざまに異なる人たちが、お互いを尊重しながら学びを深めていく場——それが清泉女子大学だと私は思っています。

◆ 佐々木萌（地球市民学科専任講師）

新入生のみなさん、清泉へようこそ！ I'm excited to meet you all!

地球市民学部の佐々木萌です。一年生の皆様とは学部の英語の授業やチュートリアルでお会いすると思います。また、国際協力や開発、平和や対話に関心のある方はぜひ私が担当している2年生から受講できる専門事例の授業「地球市民と平和」「地球市民と対話」を受講ください！フィリピンやルワンダで開発や平和構築をテーマにしたフィールドワークも担当しています。

大学の講師になる前はルワンダ、インド、バングラデッシュ、コロンビア、ブラジル、ラオスなど、様々な国を対象に途上国の開発に携わるお仕事をしていました。また、今も日本、中国、韓国、モンゴルにおける市民が主体となる平和構築の活動を続けています。

学内で見かけたら、いつでも気軽にお声掛けください。お待ちしております！